

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高見 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

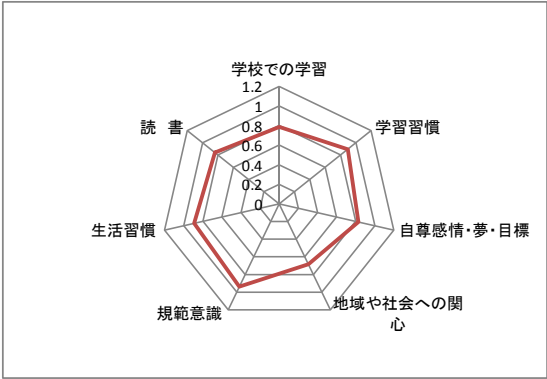
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.5	77	6.3	70	22.2	62	6.8	45
全国	24.8	77	6.5	72	23.3	65	7.2	48

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回ることができた。「話す・聞く能力」や「言語について知識・理解・技能」では、基礎的な学力を身につけている。「書く能力」や「読む能力」には課題があり、読む・書くことを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・相手に分かりやすい語句を選択して話す問題や、事象や行為などを表す多様な語句について理解する問題に対して正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・文章の要旨を捉える問題や文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ問題に対して正答率が低い。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回っており、無回答率も全国平均と比べて高い傾向にある。特に、「言語についての知識・理解・技能」に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・話の論理的な構成や展開などに注意して話を聞く問題や、集めた材料を整理して文章を構成する問題に対して正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・表現の仕方について捉え、自分の考えを書く問題や、相手の反応を踏まえながら、事実や事項が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す問題に対して正答率が低い。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回っており、「数学的な技能」や「数量や図形など」についての知識・理解に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	円柱の体積を求めたり、範囲の意味を理解する問題に対して正答率が高い。	
	努力が必要な問題	等式を目的に応じて変形したり、具体的な場面で一次方程式を作る問題の正答率が低い。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回っており、「数学的な技能」や「数量や図形など」についての知識・理解に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明する問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理する問題の正答率が低く、無回答率が高い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・各授業の中で、本時の「めあて」「まとめ」「振り返り」を設定することにより、一定の成果を上げている。反面、自分で計画を立てて勉強をしている生徒、家で学校の授業の復習をする生徒は全国平均と比べて少なく、家庭学習に課題が見られる。
・地域の行事に参加する生徒や地域や社会に関心のある生徒は全国平均と比べて少なく、自分が地域や社会の一員であることの自覚を促す取組が必要である。
・将来の夢や目標をもっている生徒は全校平均と比べて低く、それぞれの夢を実現させるために、具体的な目標設定を行い、行動に結びつけることができるようなキャリア教育の推進が必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○「基礎的・基本的な学習内容の徹底した定着」

- ・一単位時間ごとの板書計画を作成し、「めあて」「まとめ」「振り返り」を設定した授業を行う。
 - ・一単元の授業の中で、必ず「話し合う活動」を取り入れることを全教科で取り組み、生徒が、自分の意見を語ることができること、また、それを受容することができる学級の雰囲気醸成し、コミュニケーション能力の育成を図る。
 - ・日々の宿題(課題)は、教科担任が提出の有無や内容等を点検した後、生徒に返却する。長期休業日中の課題等については、係の生徒が回収し、提出の有無を調べた後、担任が確認。その後、教科担任が内容を点検し、生徒に返却する。未提出の場合は、教科担任や担任から提出を促すなど、提出物の徹底を図る。
 - ・全教科で授業の公開を行い、「授業改善点検評価シート」を活用した職員相互の意見交換を活発に行う。また、管理職や学力向上推進委員による授業参観を行い、具体的な改善点を指導・助言する。
- #### ○校内研究の計画的な推進
- ・タブレットPCや電子黒板等のICT機器を活用した授業を実践し、生徒の学力向上のための一助とす
 - ・授業づくりの5つのポイントを全教室に掲示し、職員研修等で周知することで、全職員がわかる授業づくりに取り組む体制を整える。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○「家庭学習のスタンダード化」

- ・家庭学習の時間を確保するために、課題(宿題)の内容や量について各教科で共通理解を図る。また、放課後の時間について実態調査を行い、生活ノートを活用した家庭学習の方法について、担任が点検・
- #### ○「保護者への啓発」
- ・『高見中学校区で目指す児童・生徒の10の姿と取組』を各家庭や小学校に配布し、生徒・地域・保護者に周知を図り、家庭学習の量・質の充実を図る。
 - ・全国学力・学習状況調査や、北九州市学力状況調査の結果、明らかになった課題や取組等を保護者へ周知し、学校と家庭が連携・協力して学力向上と希望する進路の実現に向けて取り組めるようにする。
- #### ○「家庭チャレンジハンドブック」等の活用
- ・学活の時間を利用して、担任が家庭学習全般(家庭学習Q&等)について、また、各教科の家庭学習のポイントについては、各教科担任が授業の時間に指導する。
- #### ○「小中連携による学力向上の取組」
- ・小中教員による授業研究会を各学期に実施(研究推進学習会・授業づくり学習会等)。
 - ・小中教員による校内研修会を各学期に実施(対人スキルアップ・自殺予防教育・情報モラル教育等)。